

研究班番号【42】
絵本の持つちから

国語班：藤田奏人

要約

本研究では、絵本が子どもの発達にどのように関わっているかに焦点を当てて、研究を行った。私は、絵本とは子どものコミュニケーションを育む知育玩具であり、知的発達面と情操面の両面で、幼児の発達に関わっているのではないかという仮説を立て、文献調査を行った。上原氏(2015)の「絵本ナビ」を用いた研究から、『真似』や『ごっこ遊び』を始めたという結果を得たが、これは脳の発達過程では当然に起こるようで、絵本の影響によるものとは考えにくい。また、尾崎氏(2005)は、6名の5歳児に「ぐりとぐら」の読み聞かせを行い、反応を記録した。その結果、登場人物と同じように歌うなど、情操的発達が見て取れた。以上より、絵本には、知的発達の効果は薄く、主に幼児の情操を育む効果を持つと考えられる。

1. はじめに

私は昨年、家庭科の授業で絵本について学んだ際に、幼少期に両親から読んでもらった絵本を覚えているという友人が多いということを知り、絵本を通しての他者とのコミュニケーション(または読み聞かせ)が、その後の人生に大きな影響を与えるのではないかと考えた。そこで、本研究では、絵本が子どものコミュニケーション能力の発達にどのように関わっているかに焦点を当てて、研究を行った。

2. 研究方法

まず初めに、絵本の読み聞かせについて、秀氏(2001)の先行研究では、絵本は幼児の読解力などの基礎的学力の原点となっていると指摘している。また、宮本氏(2004)は、他者の存在によって意味を成すコミュニケーションツールであると述べている。私はこれらの研究より、絵本はコミュニケーションを育む知育玩具であり、知的発達面と情操面の両面で、幼児の発達に関わっているのではないかという仮説を立て、文献調査を行った。

3. 結果

《調査1》 知的発達の面から見た「絵本」

上原氏(2015)は、絵本情報サイト「絵本ナビ」の上位10冊に寄せられた、親のレビューを分析の対象として、子どもの認知発達について研究を行った。その結果、「読み終えた後、「真似」や「ごっこ遊び」を始めた」というレビューが多数を占めていた。このことは、医学的な脳の発達過程では当たり前なようで、絵本の影響によるものとは考えにくい。また、一部ではあるが、「まだ習っていないはずのひらがなを読み始めた」という記述も見られたようだ。これは、絵本(または読み聞かせ)が影響している可能性がある。

《調査2》 情操発達の面から見た「絵本」

尾崎氏(2005)は、「ぐりとぐら」を6名の5歳児に読み聞かせ、その都度、対象の反応を記録した。その結果、幼児は、登場人物と同じように歌ったり、非常にポジティブな面での情操的発達が見て取れた。

また、尾崎氏(2005)は、同論文で、子どもたちの心を豊かに育てていくためには、読み手である保育者の技術とともに、絵本の絵と文が子どもたちの想像力を豊かにするための大きな役割になっている。と述べている。ここで言う、保育者の技術とは、絵本を読み聞かせる際に、抑揚を付け

たり、キャラクターを演じ分けたりする技術のことである。松村氏(2015)は、このテクニックを使用しているか否かで、幼児の抱く物語への印象は大きく変わると指摘している。

4. 考察

以上の2つの文献調査より、絵本の種類にもよるとは思われるが、絵本とは、他者(親や保育士など)とのコミュニケーション手段であり、知的発達の効果は薄く、主に、幼児の情操を育む効果を持つと考えられる。しかし、絵本を通じた幼児の情操発達には、保育者の技術の高さも関係しているのではないかと私は考えた。

5. まとめ

本研究では、主に紙の絵本での読み聞かせについて研究を行ったが、今後、スマートフォンやタブレットなどを使って読み聞かせを行った場合での効果の違いなども、研究が進めば良いと思う。この研究から、絵本は幼児の情操教育にとって、とてもポジティブな効果を持つことが分かった。私も将来、自分の子どもができた際には、積極的に絵本の読み聞かせを行っていこうと思う。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

- 秀真一郎「絵本の読み聞かせにおける一考察」(2001)
- 宮本美里「保育者志望学生の読み聞かせにおける意識に関する考察 抄録」(2004)
- 上原宏「発達心理学の観点から見た絵本レビュー中の子供の反応の分析」(2015)
- 尾崎恭子「幼児の精神発達と絵本」(2005)
- 松村敦「絵本の読み聞かせ時の演じ分けが物語の印象に与える影響」(2015)